

令和2年度 学校評価のまとめ

今年度も、11月に『学校評価』を実施しました。

※ 重点を置いて取り組んだ項目や、評価の低かった項目について、各部・舎ごとにご説明しています。

岡山聾学校では、今後も幼児児童生徒の学校生活、寄宿舎生活をより良くするために、保護者や地域の皆様と連携し取り組んでいきたいと考えております。

岡山県立岡山聾学校

【幼稚部】

本年度は特に「幼児の主体的な活動としての遊びを十分に確保し、環境設定を工夫して、心が動く体験を通して好奇心を育み、物事について思考したり、知識を蓄えたりするための基礎づくりをすること」を重点に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を目指した保育活動の改善や充実に向けて、様々な取り組みを行いました。

思い思いの活動に心行くまで取り組むことができるよう、「好きな遊び」の時間を十分確保し、様々な環境設定を展開しました。その中で、個々の幼児の実態や目標に合った言葉掛けをして、心情や感性、生きた言葉が育つよう働きかけていきました。

コロナ禍により、行事が縮小となったり、例年行っている活動ができなかったりしましたが、精一杯の取り組みを工夫しました。5歳組は、竜之口幼稚園まで歩いて行き、お友達といろいろな遊びをして、楽しく交流ができました。どんぐりやお花を用いたままごとを楽しんだ幼児。友達と一輪車に挑戦した幼児。それぞれにコミュニケーションを図りながら、楽しいひと時を過ごしました。

幼稚部と小学部との交流は、2学期から行いました。児童会主催のビンゴゲームでは、お兄さん、お姉さんに教えてもらいながら、楽しく活動することができました。また、昼休みに小学部のわんぱく広場に行って、一緒に鬼ごっこをするなど、日々の交流も楽しくできました。

アヒルやヤギの動物との触れ合い、ブドウ狩りなど、地域の方々にお世話になりながら、様々な体験も積むことができました。

行事では、10月に幼稚部だけの運動会を行いました。保護者の方と綱引きをしたり、玉入れや競争をしたり、力一杯活動しました。5歳組は、小さいお友達へのプレゼント作りや片付けなど、大活躍でした。こうした、様々な「心が動かされる体験」が、幼児の主体性や好奇心を育み、思考する態度や学びにつながっています。これからも、幼児の主体的な活動である遊びを大切にして、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭に置いて指導を行っていきたいと思います。



竜之口幼稚園との交流



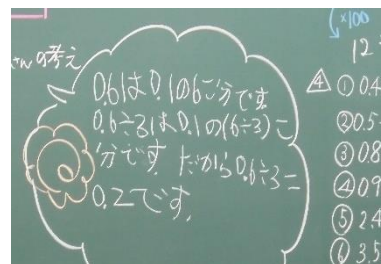
小学部との交流

【小学部】

今年度は特に、日本語語彙や文法等の学習の充実を図り、『論理国語』に基づいて文を正しく理解したり表現したりする力を養うことを重点に取り組んできました。

「『論理国語』に基づいて文を正しく理解したり表現したりする力を養う」について…日本人は自分が言いたいことを表現するために無意識的に言葉を一定の規則に従って使っているとされます。その規則を意識的に身に付ける学習を積み重ねることで、文を正しく理解したり表現したりすることができるようになることを目指すのが、『論理国語』に基づいて文を正しく理解したり表現したりする力を養う」取組です。

昨年度から検討して、その規則を(1)イコールの関係、(2)対立関係、(3)因果関係、(4)文の要点(主語・述語・目的語の関係)の4つの柱から成り立っていると考えています。例えば、(3)因果関係は、「昨日から歯が痛い。だから、今日は歯医者さんへ行った。」「今日、私は歯医者さんへ行った。なぜなら、昨日から歯が痛かったからだ。」のように、原因と結果を示す関係、この関係を正しく読み取ったり表現したりできることを目指します。



「だから」を使って、自分の考えを表現しています。

小学部では、子どもたちがこれら4つの柱の習得に向かって読んだり書いたりする学習を積み重ねて、意識せずとも文を正しく理解したり表現したりする力をつけられるように、自立活動の時間や各教科等の学習の中での指導を工夫しています。確認テストを行ったところ、昨年度と比べて、どの柱の内容についても、伸びが見られました。

また、今年度から全面実施されている新しい学習指導要領の趣旨に則って、「主体的に学ぶこと」を今まで以上に大切に指導しています。子どもが、「どうしてだろう?」「知りたい」「できるようになりたい」と思うことができるように教材や問いを工夫したり、自分で考えたり調べたりできるよう支援したりなどしています。その中で友達やいろいろな人と対話したり関わったりしながら、自分の考えを広げたり深めたりすることも(コロナ禍でいろいろな制約がありますが、)大切にしています。そのような学習を積み重ねることで、「学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的(アクティブ)に学び続けるようにすること」(文科省)を目指しています。

地域や他の学校(園)と交流学習を行うことにより、コミュニケーション能力の向上を図り、豊かな人間性を育てている。(アンケートNo.9)

交流学習は、子どもたちが経験を広め、積極的に人と関わっていく中で、社会性や豊かな人間性を育み、互いを尊重し合う大切さを学ぶ貴重な学習の場となっています。

本年度は、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、岡山市立竜之口小学校との交流は原則実施できませんでした。しかし、そんな中でも、4年生の山の学校と5年生の海の学校には合同で参加し、一緒にネイチャーワークをしたり力を合わせてカッターを漕いだりなどしました。6年生は修学旅行についてのレポートを作成してお互いに交換して紹介し合うことで、直接会えなくてもできる交流に取り組みました。その他にも3年生は、和気町立佐伯小学校の3年生とDVDやオンラインを活用した交流を計画しています。



海の学校で、竜之口小学校の友達と協力して「砂の芸術」に取り組みました。

その他、5年生は田植えや稲刈りを通して岡山東支援学校との交流をしたり、3、4年生は、例年総合的な学習の時間に地域の方としている交流を校内(幼稚部)に変更して行ったりと、できる範囲で「人との交流」を行いました。

来年度も、新型コロナウイルスの状況を見ながら、安全で、子どもたちの成長につながる交流をしていきたいと考えています。

【 中学部 】

今年度は特に、基礎学力の定着と、ことばの力・考える力・表現する力の向上に重点をおき、取り組んできました。

中学部では、昨年度から、ことばの力・考える力・表現する力の向上に向けて、各教科において、学習場面で使用される用語等の理解を促す授業づくりや掲示物の工夫など授業外での言語環境づくりの充実に取り組み、生徒たちの学習に関わる言葉への意識や関心が少しずつ高まってきています。また、考えを深めたり表現したりする力の伸張をめざし、学習内容を壁新聞などにまとめたり、まとめたことを発表し合ったりする学習活動を積極的に取り入れるようにしています。



用語カードを活用した授業



総合発表会の風景

評価アンケートでは、設問「分かりやすい授業が行われ、学習内容が身に付いている」について、「あまり当てはまらない」というご意見を多くいただきました。

中学部では、基礎学力の定着に向けて、生徒の実態に応じた学習グループの編成やティームティーチング（T.T）を取り入れるとともに、学習指導計画の工夫や指導内容の整理・精選、ICT機器等の活用などにより、「分かる授業」の展開に取り組んでいます。また、授業の他に、毎日の宿題や週末課題、年4回の定期考査も基礎学力の定着を図る上での重要な機会と捉え、日々の生活指導や学級指導などを通して、丁寧に取り組むようにしています。



T.Tによる授業

中学校期の学習内容は、小学校期に比べより抽象的になり、量的にも増加しますが、今後も基礎学力の定着に向け、より一層「分かる授業」の実現に取り組むたいと考えます。また、経年的な学力の伸びには、授業での学習のほか、家庭学習の取組状況が関わっています（岡山県学力・学習状況調査の結果から）。思春期の入口に当たる中学生は、得意なことや苦手なことなど、自分自身を客観的に捉える力を付けるとともに、いろいろな悩みや葛藤が生じる時期に当たります。引き続き、家庭学習の確保と充実に向け、ご家庭のご理解とご協力をお願いします。

来年度（令和3年度）から、中学部は新学習指導要領による教育が始まります。指導内容だけでなく、学習評価についても変わります。こちらについても、適切な対応ができるよう取り組んでいきたいと考えています。

【 高等部 】

今年度は特に「主体的な学びと考える力を伸ばすために、ニーズに合わせた学習指導と必要な支援を行うこと」に重点を置き、取り組んできました。

高等部では、一人一人の生徒の実態が多様であり、ニーズの把握と授業を受ける環境の整備が大切であると考えています。そこで、保護者、養護教諭、寄宿舍、外部機関等と迅速に連絡を取り合うことや毎日の生徒の変化をなるべく早く情報共有し、次の授業担当者に引き継ぐよう心がけています。また、安心、集中して学習できるように机・イスの配置や掲示物等の環境を整えています。

本人が主体的に取り組む、考える力を伸ばすためのツールとしてICTの活用を進めました。特に今年度新型コロナウイルス感染症対策のためにオンライン授業にも取り組みました。これらは、聴覚障害のある生徒にとって分かりやすい授業につながったと同時に、「もっと学びたい」という気持ちにつながり、主体的な学びを支えるものになりました。他のICTツールにも慣れてきており、後期からは生徒朝礼の内容をGスイートで後から確認できるようにしています。これらは、設問1「分かりやすい授業が行われ、学習内容が身に付いている」というアンケート結果が良好なことにも表れているのではないかと思います。



ICTの活用

一方で、設問2「懇談や通信、連絡帳等で、学習や生活の様子がよく分かる。」については、「あまり当てはまらない」という回答が他の項目に比べて多いことが分かりました。ニーズの把握ということで大切なことですが、高等部として心がけているつもりのものが、十分でないと感じておられる方が少なからずおられることが分かりました。



マスクの販売(職業)

今年度は学校ホームページ(投稿)の更新頻度やメール配信も増やしておりますが、高等部職員と生徒・保護者と双方向のやりとりができていないか、今一度足元を見直す必要があると感じます。そのために、急遽1月の参観日に学部懇談を設けました。

「考える力を伸ばす」という点については、今年度、新型コロナウイルス感染症対策のために例年行っている学習活動の多くが縮小・中止となってしまいましたが、3年生は修学旅行の内容について考えたり、2年生は職場インタビューに出かけたり、1年生は販売活動に取り組んだりすることにより、例年よりも「自分たちで考える」場面を増やすことができました。また、自立活動の内容の見直しにも取り組んでいます。

「子どもの自発的な気持ちを尊重して先生方が上手くサポートしてくださっているように思う。」という記述も見られました。今後も卒業後を見通して支援を必要最小限にし、適切な問いかけ、声掛けをすることで、考える場面を増やしたいと考えます。

また、「教員によって学習指導の度合いに大きな差がある」というご意見もありました。今一度、職員一人一人が指導方法や支援を振り返ると同時に、設問15, 16, 17で「あまり当てはまらない」という回答がやや多かった外部との連携と情報発信を図り、「ニーズに合わせた分かる授業」を推進したいと考えています。

【 寄 宿 舎 】

今年度は特に、寄宿舍での日々の生活の中での関わりを通して、主体的に行動しようとする力、伝えようとする力の育成に取り組んできました。

寄宿舍では、主体性をもち、進んでコミュニケーションしようとする力を育てるために、タペの集いなどを利用し、舎生が「スピーチ」する場を設定してきました。それぞれが「好きなこと」「やりたいこと」をテーマに、インターネット検索などして調べたことをワークシートに書き留め、それをもとに発表原稿を作りました。自分で発表用のプレゼンを作る舎生もいました。

今年度は、新型コロナ対策のため、あらかじめビデオ撮影した映像に字幕をつけたものを小学部生と中等部生に分かれて見る形をとりました。スピーチ発表会に向けて発表の仕方を工夫しながら練習している姿も見られたこと、また友達の発表も真剣に聞くことができていたことなどから、伝え合おうとする力が育ってきたと感じました。この力が、日々の生活の中でも発揮できるように指導・支援を続けていこうと思います。



調べ学習



調べ学習



スピーチ大会

各部との連携を図りながら、日常生活に必要な基本的な知識と技能が身に付くような取組（アンケート No.5）年齢に応じたマナーやコミュニケーション力等の社会性が育つ活動（アンケート No.6）

寄宿舍では、学部と細やかに連絡を取り合って舎生指導に当たっています。アンケートでは「細やかに生活の様子が分かる。学級担任も舎の出来事や様子をつかんでくれている。」という感想もいただいています。これからも、学部や保護者と連携をしっかりとりながら、様々なニーズに対応した指導支援を行っていかうと考えています。

残念なことに今年度は、コロナ対策で、自立生活（に向けての食事作り）やおやつ作りなどの活動を行うことができませんでした。寄宿舍での集団生活が安心して送れるように、食事前後の手洗いや食事の時には向かい合わないで黙って食べるなど、新しい生活様式についても日常生活を通して学んでいきました。そんな中でも、3密にならずにできることとして、夕食後、体育館でバドミントンやバレー、鬼ごっこをするなど、思い切り体を動かしながら他学年の舎生と一緒に活動する機会を作りました。また、感染症対策を取りながら、歩いてコンビニに買い物に行き、社会生活に必要なマナーについても学習しています。比較的車の少ない道を選んで、サイクリングに出かけ、地域の自然を満喫したりもしました。一人一人の舎生の「豊かな生活力」を育ていけるよう引き続き頑張っていきたいと思ひます。



サイクリング



環境整備



エコカップ集め